

実践報告

ソーシャルワーク・スーパービジョンシステム構築に関する試論

松浦智和¹⁾* 橋本達志²⁾ 佐々木旭美³⁾ 岸 美佳⁴⁾ 佐藤 剛⁴⁾

¹⁾ 名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科 ²⁾ 就労継続支援 B 型事業所ここりか・プロダクション
³⁾ 砂川市立病院 ⁴⁾ 旭川市障害者総合相談支援センターあそと

1. 緒言

既報¹⁻⁵⁾の通り、筆者らは北海道上川・空知地域においてソーシャルワーカーを構成員の中心とするグループスーパービジョンを実施してきた。その過程では、①「参加人数の不安定さ」(任意であることや参加形態にルールを課していないこと、それぞれが諸機関で職をもっていることから、毎回の参加人数にバラつきがあり、参加者の継続性という観点からは十分な取り組みとはいえない可能性がある)、②「グループの構成人数の多さ」(参加人数の不安定さは、グループ構成の不安定さに直結する。全体の参加人数が少ない回ではグループを統合して行わざるを得ない時がある。その際は、全員が発言できず傍観者になる場面があった。発言をしなくてもその場に参加することに意義があると考えするには論拠が乏しく、グループ構成の不安定さによる質の低下、参加人数の設定の難しさなどについて継続的に検討していく必要がある)、③「スーパーバイザーの養成」(誰がスーパーバイザーを担えるかという根本的な課題がある。これらについては、職能団体が一定の方向性を示していることが多いものの、現実には相応の人数を確保しようとする場合には、筆者らが活動する地域では、費用面や時間的な制約が大きく、地域のなかでの仕組みづくりを進めていかねばならないことは明白である)、④「運営体制(事務局体制等)」(近年のスーパービジョンへのニーズの高まりから、参加希望者は増える一方である。そして、参加者が増えることによる事務局の管理業務も増加しており、様々な調整の不足や不手際が出始めていることも看過できない)、⑤「スーパービジョンにおける教育的・管理的機能の取り入れの難しさ」(参加人数・グループ構成の不安定さにより、グループの成熟に不安があることから、結果的にスーパーバイザーとスーパーバイジー、メンバー相互の関係性の深化が進まず、支持的機能が関わりを中心となっている感が否めない)などの課題が示唆された。

本稿では、上記課題について配意し運営した上川・空知地域の各スーパービジョン研究会における2021年度の活動について報告するとともに、ソーシャルワーク・スーパービジョンシステム構築の可能性やグループスーパービジョンの必要性や運営の諸課題について試論を述べることとする。

2. 上川・空知地域スーパービジョン研究会の活動概要

上川スーパービジョン研究会は北海道旭川市やその近郊、空知スーパービジョン研究会は滝川市や砂川市とその近郊で活動するソーシャルワーカーによる任意の学習・研究会であり、2017-2018 年頃より活動を行ってきた。2021 年度は以下の活動を行った(表1・2)。

表1 上川地域スーパービジョン研究会の活動(2021 年度)

回	日程	テーマ・内容
1	2021 年 10 月 1 日	① 4 チームに分かれたオリエンテーション ② 「自己紹介、チーム名の決定、次回のテーマ担当者、連絡方法、次回の日程調整」
2	2021 年 11 月 12 日	<チーム A>ハイブリッド 発題者：障がい福祉相談支援センター精神保健福祉士 テーマ：「ご本人の利益と家族の心配。どっちもわかるけど、ご本人も家族も安心できるには？」

*責任著者 E-mail:matuura@nayoro.ac.jp

		<p><チームB>ハイブリッド 発題者：行政機関社会福祉士 テーマ：「地方公務員（行政職）としての社会福祉士に求められる役割について」</p> <p><チームC>ハイブリッド 発題者：医療機関ソーシャルワーカー テーマ：「病院と地域の壁」</p> <p><チームD>ハイブリッド 発題者：行政職員支援員 テーマ：「職場内での、人間関係について」</p>
3	2021年12月15日	<p><チームD>ハイブリッド 発題者：地域包括支援センター社会福祉士 テーマ：「家族に対してイラっとした時の、気持ちの切り替えや気分転換の方法は？」</p>
4	2021年12月17日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：居宅介護支援事業所ケアマネジャー テーマ：「関係事業所の安全を確保し、本人にとって必要なサービスを受けていただくには？」</p> <p><チームB>ハイブリッド 発題者：障がい福祉サービス事業所精神保健福祉士 テーマ：「精神保健援助実習の時に思う精神保健福祉士の仕事ってなに？」</p>
5	2022年1月21日	<p>新型コロナウイルスの影響により、zoomと集合型を併用して実施。 チームは参加可能な人をシャッフルしたチーム編成とした。</p> <p><チームA>ハイブリッド 発題者：障がい福祉サービス事業所管理者 テーマ：「管理者・サービス管理責任者としてのモチベーション維持」</p> <p><チームB>ハイブリッド 発題者：医療機関精神保健福祉士 テーマ：「ソーシャルワーカーの正義感の持ち方」</p> <p><チームC>ハイブリッド 発題者：地域包括支援センター主任ケアマネ テーマ：「地域包括支援センターの主任CMが地域の主任CMへSVを行う」</p>
6	2022年2月25日	<p>新型コロナウイルスの影響により、zoomと集合型を併用して実施。 チームは参加可能な人をシャッフルしたチーム編成とした。</p> <p><チームA>ハイブリッド 発題者：地域包括支援センター社会福祉士 テーマ：「専門職の離職とこれからの人材育成」</p> <p><チームB>ハイブリッド 発題者：障がい福祉サービス事業所管理者 テーマ：「専門的援助関係について」</p> <p><チームC>ハイブリッド 発題者：介護保険デイサービスセンター機能訓練指導員 テーマ：「柔道整復師とリハビリ職の違い」</p>
7	2022年3月18日	<p>新型コロナウイルスの影響により、zoomと集合型を併用して実施。 チームは参加可能な人をシャッフルしたチーム編成とした。</p> <p><チームA>ハイブリッド 発題者：居宅介護支援事業所主任ケアマネ テーマ：「主任介護支援専門員が新人介護支援専門員へのSVを行う事例について」</p> <p><チームB>ハイブリッド 発題者：障がい福祉サービス事業所精神保健福祉士 テーマ：「自己実現に向けてモチベーションは高く、日々努力をしている。一方で仕事へのモチベーションが低下の一途を辿っている。諦めや割り切ることが増え、対人支援や職場の人間関係で悩むことがほとんどなくなってきた。このままで本当によいのか？」</p>

表2 空知地域の地域スーパービジョン研究会の活動(2021年度)

回	日程	テーマ・内容
1	2021年4月30日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：医療機関ソーシャルワーカー(精神保健福祉士) テーマ：「いままでのわたし、これからのわたし」</p> <p><チームB>ハイブリッド 発題者：医療機関ソーシャルワーカー(精神保健福祉士) テーマ：「自分なりのケースワークを確立するには」</p>
2	2021年5月20日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「社会福祉士に求められる能力を知りたい」</p>

		<p><チームB>ハイブリッド 発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「仕事へのモチベーションを維持するには」</p>
3	2021年6月18日	<p>オリエンテーション、交流会</p>
4	2021年7月9日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「相談支援専門員の役割とは..私って何だろう」 <チームB>ハイブリッド 発題者：医療機関ソーシャルワーカー テーマ：「私が考える地域づくり」</p>
5	2021年8月20日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「法人内相談支援事業所のモヤモヤ感、私たちのつくる計画の存在価値って？この手間暇とモチベーションはどうしたら良いの？」 <チームB>ハイブリッド 発題者：医療機関ソーシャルワーカー テーマ：「恐れを手放すには」</p>
6	2021年9月17日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「自身のストレスマネジメントについて 感情労働なのでストレス回避や自身のケアが重要だと思う事」 <チームB>ハイブリッド 発題者：医療機関ソーシャルワーカー テーマ：「相手の立場に立って考えるにはどうしたらよいでしょうか」</p>
7	2021年10月29日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：ケアハウスソーシャルワーカー テーマ：「業務上の負の感情との付き合い方・向き合い方について」 <チームB>ハイブリッド 発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「ミナミナの会に来て改めて感じることとこれからの自分・仕事について」</p>
8	2021年11月26日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：医療機関ソーシャルワーカー(精神保健福祉士) テーマ：「自分自身への自信の深め方について学びたい」 <チームB>ハイブリッド 発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「福祉職の魅力ってなんでしょうか？」</p>
9	2021年12月3日	<p>1年間の振り返り</p>
10	2022年1月7日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：医療機関ソーシャルワーカー(精神保健福祉士) テーマ：「自分の感情と上手に向き合うためには」 <チームB>ハイブリッド 発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「趣味を持つことが苦手な自分」</p>
11	2022年2月4日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：居宅介護支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「ワークライフバランスの悪さ」 <チームB>ハイブリッド 発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「自分の支援の傾向(クセ)を知りたい」</p>
12	2022年3月18日	<p><チームA>ハイブリッド 発題者：医療機関ソーシャルワーカー(精神保健福祉士) テーマ：「私はいったい何がしたいのか」 <チームB>ハイブリッド 発題者：子ども発達支援センター相談支援専門員 テーマ：「モチベーションと人間関係について」</p>

3. グループスーパービジョン運営の諸課題

両研究会とも始動から数年を経て、グループスーパービジョンのチーム数は、上川では4つ、空知でも2つとなり、参加者が多くなってきた。ここでは、緒言に示した課題について2021年度の活動から検討したい。

まず第1に、①「参加人数の不安定さ」であるが、絶対的な参加人数の増加から、欠席者が多くグループスーパービジョンが成立しないということはなくなった。しかし、それでもメンバーによっては参加回数に差があるため、継続的な参加と変化という視点では不安が残っている。

次に、②「グループの構成人数の多さ」であるが、こちらも一定人数に達したことによりチーム数を増やしたため大きな問題にはならなかった。これまでは、全体の参加人数が少ない回ではグループを統合して行わざるを得ない時があり、その際は、全員が発言できず傍観者になる場面があったが、これらについては概ね解決したものと思われる。

続いて、③「スーパーバイザーの養成」であるが、チーム数が増えたことにより、スーパーバイザーを担う者は増やさざるを得なかった。その結果、新しいスーパーバイザーがデビューしたわけであるが、スーパーバイザー自身の不安感も強く、このフォローの必要性は明白であった。研究会では、これまでスーパーバイザーを担ってきた者をシニアスーパーバイザーと位置づけ、スーパーバイザーのスーパービジョンに取り組んでいくこととした。一方で、これまでも議論してきた「誰がスーパーバイザーを担えるか」という根本的な課題は研究会全員が合意できる方向性を示せてはいない。

さらに、④「運営体制(事務局体制等)」では、相変わらず、近年のスーパービジョンへのニーズの高まりから、参加希望者は増える一方である。それにともない、参加者が増えることによる事務局の管理業務も増加しており、様々な調整に労力がかかっている。これらについては、事務局員の増員や、業務のスリム化を徹底することで一定の解決は見られるが、スーパービジョン・システムを考える過程では、運営体制はもっとも重要な課題のひとつであり、公平で公正、かつ一部の人間関係だけに頼らない仕組みづくりを検討する必要がある。

最後に、⑤「スーパービジョンにおける教育的・管理的機能の取り入れの難しさ」であるが、本年度はほぼ検討ができず、現在、アンケート調査などを通じて情報を収集している。この結果は別稿にて報告したい。

附記

本研究は、名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター2021年度課題研究助成を受けた。記して深謝申し上げる次第である。

参考文献

- 1)松浦智和, 橋本達志, 岸美佳, 長濱章雄, 櫻田裕司, 今井敦, 下坂佳苗, 佐藤剛: 地域におけるソーシャルワーク・スーパービジョンのニーズに対する取り組み, 職能団体認定スーパーバイザー・事業所・大学による協働をめざして. 名寄市立大学社会福祉学科紀要, 8: 33-48, 2018.
- 2)松浦智和, 橋本達志, 岸美佳, 佐藤剛, 櫻田裕司: 上川地域におけるソーシャルワーク・スーパービジョン研修会開催の試み: グループスーパービジョン実践を中心に. 名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター年報, 3: 95-100, 2019.
- 3)松浦智和, 橋本達志, 佐々木旭美: 地域におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの試み, 北海道空知地域におけるグループスーパービジョン実践から. 名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター年報, 4: 63-68, 2020.
- 4)松浦智和, 橋本達志, 岸美佳, 佐藤剛, 櫻田裕司: 北海道上川地域におけるソーシャルワーク・グループスーパービジョンの試み, スーパーバイザーの養成をめざして. 名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター年報, 4: 25-32, 2020.
- 5)松浦智和, 橋本達志, 岸美佳, 佐々木旭美: 北海道におけるソーシャルワーク・スーパービジョンネットワーク構築に関する基礎的研究, 名寄市立大学スーパービジョン研究センター(仮称)創設の可能性の検討を含めて. 地域と住民: コミュニティケア教育研究センター年報, 5: 85-86, 2021.